

コロナ禍が始まって以降、アジア人ヘイトが横行するニューヨークで、暴漢に襲われ瀕死の重傷を負いながらも、懸命のリハビリで再起を果たした海野雅威、初のアコースティック・ソロコンサート。トーク・ゲストにピーター・バラカンを迎え、音楽とこれからの共生社会を語る。

海野雅威 TADATAKA UNNO/ピアニスト

1980年東京生まれ。4歳からピアノを弾き始め、9歳でジャズ・ピアノを始める。東京藝大在学中からミュージシャン活動を開始。鈴木良雄、伊藤君子、大坂昌彦などのミュージシャンと共演し若い世代の旗手的存在であったが、更にジャズのルーツや文化に触れる為、2008年にニューヨーク移住。新天地でもトップミュージシャンに認められ、故ジミー・コブ(ds)、クリフトン・アンダーソン(tb)、ウィナード・ハーバー(ds)、故ロイ・ハググローヴ(tp)、ジョン・ピザレリ(g, vo)、ジャズメイト・ホーン(vo)等のバンドで活動、また自身のトリオ活動も行う。2013年にはジミー・コブ・トリオのピアニストとしてヴィレッジ・ヴァンガードに日本人初出演。オーナーの故ロレイン・ゴードンをはじめ、耳の肥えた地元ジャズ・ファンを唸らせ本場ミュージシャンの仲間入りを果たす。2014年、敬愛する名ジャズ・ピアニスト、故ディック・モーガンのトリビュートコンサートのピアニストに推挙され、地元ファンに歓迎された。以来、ワシントンD.C.を中心にかつてのディック・モーガンのバンド・メンバーと共に演奏活動も行っている。2016年6月、ジミー・コブ・トリオのレコーディングで訪れたヴァン・ゲルダー・スタジオで、レコーディング・エンジニアのバイオニア・ルディ・ヴァン・ゲルダーにその才能を称賛される。彼はその二ヶ月後に逝去し、ヴァン・ゲルダー氏の生涯最後のレコーディング・ピアニストとなる。同年10月、名門ロイ・ハググローヴ・クインテットのレギュラー・メンバーに抜擢され、ロイが亡くなるまでの2年間世界各地を回る。

2020年9月、コロナ禍のニューヨークにてアジア人ということだけで襲われ重傷を負う。緊急手術後に一時帰国し、約半年に及ぶ治療を行い、活動を再開すべく、再度ニューヨークへ渡る。8月にブルーノート・ニューヨークにおけるジョン・ピザレリ・トリオの公演で演奏に復帰、秋には日本でも「奇跡の復活ツアー」を敢行した。差別や暴力に屈せず、混沌とした時代だからこそ音楽の力を信じる姿は、NHKスペシャル「素晴らしき世界～分断と闘ったジャズの聖地～」でも取り上げられ、大きな反響が寄せられる。

名ジャズ・ピアニスト世良譲、ジャズ・ピアノの巨匠ハンク・ジョーンズ、テナー・サクソフーン&フルートの巨匠フランク・ウェスが、晩年最も期待を寄せていたピアニストでもあり、音楽のみならず人生の師として交流を深めていた。世界中のジャズ・ファンに愛され最期まで音楽への情熱を燃やし続けたハンク・ジョーンズが91年間の生涯を閉じる時、その最期に立ち会う。師の志を受け継ぎ、自己の音楽を追求することで本分を全うしていきたいと強く感じている。2022年3月、NYの仲間と録音した奇跡の復帰作「Get My Mojo Back」をVerveレーベルよりリリース。

◆公式サイト

<https://www.tadatakaunno.com>

Twitter: https://twitter.com/tadataka_unno //

Instagram: <https://www.instagram.com/tadatakaunno/>

Facebook: <https://ja-jp.facebook.com/tadatakaunnojazz>

ピーター・バラカン Peter Barakan/プロードキャスター

1951年ロンドン生まれ。1973年、ロンドン大学日本語学科卒業。1974年、来日、シンコー・ミュージック国際部入社、著作権関係の仕事に従事、1980年、同退社。このころから執筆活動、ラジオ番組への出演などを開始、また1980年から1986年までイエロー・マジック・オーケストラ、後に個々のメンバーの海外コーディネーションを担当。1986年から完全に独立。

1984年、TBS-TV「ザ・ポップ・ミュージックMTV」というミュージック・ビデオ番組の司会を担当、以降3年半続く。1988年、10月からTBS-TVで「CBSドキュメント」(アメリカCBS制作番組60Minutesを主な素材とする、社会問題を扱ったドキュメンタリー番組)の司会を担当、2014年3月終了。

◆ラジオ番組

「Barakan Beat」(Inter FM)

「Weekend Sunshine」(NHK-FM)

「Lifestyle Museum」(Tokyo FM)

◆テレビ番組

「Japanology Plus」(NHKBS-1/NHK World)

◆監修音楽フェスティバル

「Live Magic」 <https://www.livemagic.jp/>

◆監修音楽映画フェスティバル

「Peter Barakan's Music Film Festival」 <https://pbmff.jp/>

◆書籍

「ソウルのゆくえ」(アルテスパブリッシング)

「ピーター・バラカン式英語発音ルール」(駒草出版)

「Taking Stock」(駒草出版)

「ピーター・バラカン音楽日記」(集英社インターナショナル) ほか

◆公式サイト

<https://peterbarakan.net>

Twitter: @pbarakan



illustration: Toshiki SAWADA
design: Setsuko SAWADA



John Abbott 撮影



- ◆公演時間は2時間程度(途中休憩有)を予定しています。
- ◆未就学児のご入場・ご同伴はご遠慮ください。
- ◆場内での撮影・録音・飲食は固くお断りします。
- ◆都合により出演者や内容に変更のある場合がございます(不可抗力により表記日時の公演を中止する場合以外は、チケットの払い戻しは致しません)。
- ◆新型コロナウイルス感染拡大のため、お客様のご連絡先を保健所などの公的機関に提供させていただく場合があります。
- ◆新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止になる場合がございます。
- ★最新の情報は、大和田公式ホームページにてご確認ください。

www.shibu-cul.jp

ご来場のお願い



不織布マスクの着用をお願い致します



手指消毒液をご利用ください



検温を実施させていただきます

不織布マスクの着用をお願い致します。館内設置の手指消毒液をご利用ください。入場時に検温を実施させていただきます。37.5℃以上の発熱があった場合は、ご入場を断りさせていただきますことをご了承ください。また、咳・咽頭痛等の症状がある場合、政府により入国制限措置を設けている国・地域から日本へ入国後、指定された待機期間を終えていない場合等はご入場をお断り致します。

渋谷区文化総合センター大和田

SHIBUYA CULTURAL CENTER OWADA

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町23-21



アクセス1: 渋谷駅より徒歩5分
国道246号を越えてセルリアンタワーと渋谷インフォスターの間に位置します
アクセス2: 大和田シャトルバスまたはハチ公バス(タヤけこやけルート)にて乗車時間約2分
バス停「渋谷駅ハチ公口」から乗車、次のバス停「文化総合センター大和田」下車